

## ①平成30年度スーパーサイエンスハイスクール研究開発実施報告（要約）

① 研究開発課題																																																
社会に貢献できる科学技術系人材を育成する教育システムの開発																																																
② 研究開発の概要																																																
生徒が社会貢献への志向性や力量を持ち、科学技術を用いて人々に幸せをもたらす次世代の科学技術系人材へと成長できるよう、その基礎となる資質・能力の育成を図る。																																																
SSH 指定第2期においては、第1期および経過措置の取組を発展させ、目標達成に向け以下の取組を行う。																																																
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「社会貢献への志向性や力量」を高める教育プログラム</li> <li>2. 「科学的リテラシー」を向上させる課題研究のプログラム</li> <li>3. 「科学技術系人材の基礎的素養」を高める教育活動の関連付け</li> <li>4. 課題研究を通じた科学技術系キャリア教育プログラム</li> <li>5. 科学技術系人材としての卓越した資質・能力を育成するプログラム</li> <li>6. 中高連携による科学技術系人材をめざす次世代の育成</li> </ol>																																																
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 40%;">主な関連事業</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>課題研究</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>インプット・アウトプット活動</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>高大連携</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>国際性</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>探究ラボ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>							主な関連事業	1	2	3	4	5	6	課題研究	○	○	○	○	○	○	インプット・アウトプット活動	○	○	○	○	○	○	高大連携					○		国際性			○		○		探究ラボ					○	○
主な関連事業	1	2	3	4	5	6																																										
課題研究	○	○	○	○	○	○																																										
インプット・アウトプット活動	○	○	○	○	○	○																																										
高大連携					○																																											
国際性			○		○																																											
探究ラボ					○	○																																										
③ 平成30年度実施規模																																																
取組内容に応じて、次のいずれかを対象とした。																																																
<ol style="list-style-type: none"> <li>① 全校生徒（1,074名）</li> <li>② 1年生文理学科生徒全員（361名）</li> <li>③ 2年生文理学科理科学徒（109名）</li> <li>④ 3年生文理学科理科希望生徒（6名）</li> <li>⑤ 各学年「探究ラボ」希望者（18名）</li> </ol>																																																
④ 研究開発内容																																																
○研究計画																																																
第1期																																																
<b>第一年次</b> ※1：旧呼称、現行の「探究チャレンジⅠ」																																																
<ol style="list-style-type: none"> <li>① 1年生対象の「探究チャレンジⅠ（前半）※<sup>1</sup>」の開講</li> <li>② 講座・講演会・研修会の実施（科学史、科学者倫理、論文作成法）</li> <li>③ 研究活動の実施（夏休み：個人科学研究、学年後半：課題研究）</li> </ol>																																																
<b>第二年次</b> ※2：旧呼称、現行の「探究チャレンジⅡ」																																																
<ol style="list-style-type: none"> <li>① 2年生対象の「探究チャレンジⅠ（後半）※<sup>2</sup>」の開講</li> <li>② 自主テーマによる課題研究活動を実施</li> <li>③ 全員が口頭発表をする機会を設定</li> </ol>																																																
<b>第三年次</b> ※3：旧呼称、現行の「探究チャレンジⅢ」																																																
<ol style="list-style-type: none"> <li>① 3年生対象の「探究チャレンジⅡ※<sup>3</sup>」の名称で開講</li> </ol>																																																

- ② 成果を論文にまとめ、SSH 生徒研究発表会等で口頭発表、ポスター発表を実施
- ③ 「探究マナー講座」を実施

#### 第四年次

- ① テーマ決定までの過程を修正
- ② ドイツエネルギー研修の実施
- ③ 地域との連携を強化（課題研究の成果を近隣小学校で発表等）

#### 第五年次

- ① テーマ設定時期の早期化
- ② 校内中間発表、成果発表の会場を統合

#### 第六年次（指定第1期目 経過措置1年次）

- ① SSH 事業を管轄する分掌「GL 部」を創設
- ② 「探究ラボ」の創設（サイエンススペシャリスト養成プログラムの実施）
- ③ 文系・理系の合同中間発表会・成果発表会の形態を実施

#### 第2期

#### 第一年次

- ① 探究ラボの活性化（週1回のプレゼン発表、英語でのポスター発表、オープンラボ活動）
- ② 本校卒業生を学生 TA として連携（課題研究指導、講演会、特別講座）
- ③ 課題研究活動における全校体制に向けた指導用共通教材の開発（プリント、スライド）
- ④ 成果の見える化の取組を実施（HP の刷新、SSH ブログの開設、職員会議でのプレゼン）
- ⑤ インプット活動・アウトプット活動の推進（新規・継続企画）

#### ○教育課程上の特例等特記すべき事項

1. 第1学年の文理学科の学校設定科目「探究チャレンジⅠ」は、「総合的な学習の時間」の3単位履修分のうち1単位を替えて、教科「暁高課題研究」により実施。
2. 第2学年の文理学科理科の「探究チャレンジⅡ」は、「総合的な学習の時間」の3単位履修分のうち1単位を替えて、教科「理数」の科目「課題研究」により実施。
3. 第2学年の文理学科文科の学校設定科目「文科課題研究」は、「総合的な学習の時間」の3単位履修分のうち1単位を替えて、教科「暁高課題研究」により実施。
4. 第2学年の普通科の学校設定科目「普通科課題研究」は、「総合的な学習の時間」の3単位履修分のうち1単位を替えて、教科「暁高課題研究」により実施。
5. 第3学年の文理学科理科の「探究チャレンジⅢ」は、教科「理数」の科目「課題研究」（1単位）により実施。

#### ○平成30年度の教育課程の内容

1. 「探究チャレンジⅠ」  
1学期を基礎力習得期、2学期を考察力養成期、3学期を探究心養成期と位置づけ、2年生で本格的に取り組む探究活動に備えて基礎を学び、研究の進め方を経験する。
2. 「探究チャレンジⅡ」「文科課題研究」「普通科課題研究」  
本格的探究活動。自ら設定した探究テーマに仮説を立てて立証する。研究内容を論文にまとめるとともに、ポスター発表・口頭発表を行う。
3. 「探究チャレンジⅢ」  
2年生でまとめた論文を推敲する。全国発表をめざすチーム、研究の完成をめざすチームは課外での探究活動を積極的に行う。

○具体的な研究事項・活動内容

①学校設定科目（課題研究）

科目名	対象（頻度）	概要
『探究チャレンジⅠ』	73期1年生 361名 (2週で1コマ)	[指導担当] 1年担任・副担任 9クラス同時展開／共通指導教材 課題研究活動の基礎を学ぶ
『探究チャレンジⅡ』 『文科課題研究』 『普通科課題研究』	72期2年生 360名 (2週で2コマ)	[指導担当] 2年学年団＋理科教員全員 9クラス同時展開／共通指導教材 班毎に1年間かけて行う研究活動
『探究チャレンジⅢ』	71期3年生 6名 ※右は課外での取組	[指導担当] 有志の教員数名＋大学教員 全国規模の発表会等に向けての研究 論文の推敲

②インプット活動・アウトプット活動

「インプット活動」：講座・研修等、興味・関心と知識・技能を高める活動

「アウトプット活動」：発表会・説明会等、自ら発信・発表・表現する活動

主な取組

インプット活動	アウトプット活動
臨海部エネルギー研修 九州エネルギー研修 関東サイエンス研修 産業技術総合研究所 電池研修 近畿大学原子炉見学 パナソニックミュージアム見学 等	SSH 生徒研究発表会 GLHS 10校合同発表会 大阪サイエンスデイ 科学の甲子園 科学オリンピック（化・生・数・情・地理） その他の外部発表 等

③高大連携

《大学教員からの研究指導》

高校3年生の課題研究班を中心に、専門的な指導・助言をいただいた。

『スイングバイの理論解明』（大阪工業大学）

『時間割評価システム』（関西学院大学）

『高吸水性高分子』（大阪大学）等

《グローバルサイエンスキャンパス（GSC）》

大学が将来グローバルに活躍しうる傑出した科学技術人材を育成することを目的として、地域で卓越した意欲・能力を有する高校生等を募集・選抜し、国際的な活動を含む高度で体系的な理数教育プログラムの開発・実施する事業に参加した。

	結果
京都大学 ELCAS	1名合格／4名応募
大阪大学 SEEDS プログラム	4名合格／7名応募
神戸大学 ROOT プログラム	合格者なし／1名応募

《卒業生との連携》

本校卒業生のうち「AO・推薦入試合格（経験）者」「課題研究関係のイベント入賞（経験）者」「教員志望者」のうち、コーディネーターとしてのコミュニケーション能力に秀でている者を学生TAとして課題研究活動をサポートいただいた。

ex. 授業支援、放課後指導、行事の準備・運営補助、学生TA通信、特別講座、講演会

#### ④国際性

留学生を講師として招聘し、All English で物理・化学分野の実験と発表する「サイエンスイングリッシュ」、オーストラリア研修、ベトナム医療ボランティアツアー、台湾修学旅行、国際交流キャンプ等の「国際交流活動」、4月に大阪府立三国丘高等学校、2月に東京都立戸山高等学校にて「英語でのポスター発表」を実施。

#### ⑤探究ラボ

2017年度に発足した「課題研究活動」に特化した集団。科学者や技術者をめざすことを念頭に、授業や課外活動等において学校の教育力を集中させ卓越した資質・能力を育成。

### ⑤ 研究開発の成果と課題

#### ○実施による成果とその評価

##### ①学校設定科目（課題研究）

教員用の指導用共通教材（プリント、スライド）を作成することで、理科・数学の教員に限らず、全校体制で生徒の課題研究活動を指導・運営することができた。課題研究担当者会議を授業時間内に実施することで、教員間の意思疎通を密に図ることができ、指導のバラつきを軽減できた。

##### ②インプット活動・アウトプット活動

新規の企画を含め、多数の学びの機会を提供できた。事後のアンケートではいずれの企画においても非常に高い満足度を示した。これまで参加してきた化学グランプリの参加人数が倍増。また、生物学や情報、地理などの科学オリンピックに初めて参加した。

##### ③高大連携

大学の教員からの指導・助言に加え、今年度から卒業生に学生 TA として協力いただくことで指導・運営体制の充実を図ることができた。大学の研究室訪問の満足度も高かった。

#### ④国際性

英語でのポスター発表会に初めて参加した。また、留学生を講師に招いたサイエンスイングリッシュ企画を行い、アンケートから再挑戦したいとの決意や英語への学習意欲の向上が見られた。

#### ⑤探究ラボ

多くのインプット活動に優先的に参加し、またアウトプット活動も積極的に行った。中学生向けの実験講座や紹介プレゼンなどのオープンラボ活動を新たに実施。ラボブース（質問会）に参加した中学生から、本校入学後には是非探究ラボに入って活動したいとのコメントをいただいた。

#### ○実施上の課題と今後の取組

##### ①学校設定科目（課題研究）

2年生の課題研究活動の内容の深化が課題である。理数系分野のテーマにおいて、授業時間内に実験や観察を行い、教員からの重点的指導を受ける「SS 探究」というグループを作った。1年生の3学期に希望者対象に選考会を実施し、指導の充実を図る。

##### ②インプット活動・アウトプット活動

企画の見直しと再編成を行い、多くの生徒に学びの機会を提供。参加生徒が事前・事後に作成する研修報告書を専用のファイルに綴じ、ポートフォリオによる振り返りを促す。

##### ③高大連携

課題研究活動における学生 TA 企画の更なる充実に加え、大学との共同研究を行う。

#### ④国際性

国内での英語ポスター発表会への参加を次年度も継続。口頭発表や海外での発表会に挑戦。

#### ⑤探究ラボ

活動が放課後となるため、部活動との両立が課題。次年度は授業時間に活動ができるよう調整。

## ②平成30年度スーパーサイエンスハイスクール研究開発の成果と課題

## ① 研究開発の成果

SSH 指定第2期においては、第1期および経過措置の取組を発展させ、生徒が社会貢献への志向性や力量、科学技術系人材としての基礎的素養を育成することをめざし、研究開発に取り組んだ。「社会に貢献しようとする意識や意欲」「課題発見力」「発信力」「表現力」「英語コミュニケーション能力」「科学的リテラシー（科学・技術への理解、分析力、論理的思考力、論理的対話力等）」が本事業で特に育成したい資質・能力である。

以下に各取組の成果を示す。

## 1. 学校設定科目(課題研究)

本校はこれまで普通科と文理学科を併設していたが、今年度入学生より文理学科のみの専門高校となった。第1期では文理学科理科を中心に課題研究活動をスタートさせたが、新入生より全員が本格的な課題研究(探究活動)に取り組むこととなった。生徒の科学技術系人材としてのキャリア発達を促しながら、求める資質・能力が育成されることをねらい、3年間で5期に分けて課題研究活動を段階的に繰り返し実施していく。

準備期 入学前～1年6月	第1期 ～1年11月	第2期 ～2年9月	第3期 ～3年6月	高大接続期 3年7月～
プレ探究活動	探究1週目	探究2週目	探究3週目	探究仕上げ
身近な課題を テーマに	エネルギーを テーマに	興味・関心に 応じたテーマで	科学者・技術者 コースに分かれて	ポートフォリオ ・論文まとめ

## ①指導用共通教材の開発

全員が課題研究活動を行うため、教員用の指導用共通教材(プリント、スライド)を作成した。また、担当者間の意思疎通や情報共有を密にするため、授業時間内に課題研究担当者会議を開いた。指導の方向性や枠組みをこれまで課題研究活動の指導に関わってこなかった新着任の先生方も円滑に指導を開始することができた。

## ②1分間スピーチ/ポートフォリオ

授業の最後に生徒が班や個人単位で行う1分間スピーチを導入した。課題研究の授業は自由度が高く、その1時間をどう過ごしてよいか分からず戸惑う生徒も多い。1分間スピーチを行うことで、本時の進捗を振り返ることができるとともに、次回何を行うべきかを明確にすることができた。また、同じ教室内の他の班の進捗や成果や悩みを全員で共有することができ、それによって自らの活動を再考するきっかけにもつながった。毎時間、専用のルーズリーフに活動内容をまとめ、ファイルに綴じていった。LHRの時間等も活用しながら振り返りを行った。1年の7月に実施したアンケートでは「入学時と比べて、自分の意見を言語化して相手に伝えることが上手くなったと思うか」という問いに対して約5割、1月には約6割の生徒が肯定的に捉えていた。

## ③校内発表会の工夫

昨年度より文系・理系のテーマ合同で2年生全員が校内発表会にて発表を行い、1年生が見学する形式をとった。また、来場者にはSSH生徒研究発表会にならって、付箋にコメントを書きいただき、ポスターに貼るようにした。今年度は付箋に書いてもらう評価やコメントに一定の枠組みを作った。これにより、発表者が後で振り返りやすくなった。運営指導委員や課題研究アドバイザーの方には『これは!付箋』という特別な付箋をお渡しし、貼ってもらった発表生徒のモチベーション向上に役立った。「付箋賞」や「ベストポスター賞」等の賞をつくり、課題研究通信『NAWATE SPIRAL』にて表彰した点も当日の発表の意欲向上に寄与した。

#### ④選考会の工夫

SSH 生徒研究発表会に出場する3年生の班は例年、教員が特定の一班を推薦する形で選んできた。今年度は2つ班が出場の希望を申し出たため、選考会を開いて選ぶ形をとった。3年生でも継続して研究活動を続けたいという課題研究活動に対する意欲の高まりがみられた。また、本校では A0・推薦等の特色入試にて国公立大学に合格する生徒が増加してきたことも1つの要因と考えられる。

国公立大学 A0・推薦入試結果（3ヵ年）

	68期 (2016)	69期 (2017)	70期 (2018)
合格者数/受験者数	3/22	14/27	17/42

2年生の校内成果発表会での口頭発表の代表選考においては、「領域代表一次選考会」「領域代表二次選考会」と二段階で選考を行った。学年全員で課題研究活動を行っているため、このような形式をとった。結果的に選考会を突破するたびに、追加実験・調査、再考察を行っていったため研究内容を深化させることにもつながった。

#### ⑤探究マナー講座/科学者・技術者講演会

「研究倫理」の育成及び「社会に貢献しようとする意識や意欲」の向上を目的に、探究マナー講座及び科学者・技術者講演会を実施した。講演会実施前のアンケートでは「科学者としての倫理やマナーについて自分は知っていると思うか」との問いに対し、2割弱のみが肯定的回答をしていたのに対し、実施後の1月のアンケートでは8割を超える生徒が「研究のマナーや科学者・技術者のあり方について、理解が深まったと思うか」との問いに対し、肯定的に捉えていた。

## 2. インプット活動・アウトプット活動

### ①企画の案内

1年と2年生が通る渡り廊下に「課題研究掲示板」を設置し、外部からの課題研究関連のイベントやコンテストを案内した。また、本校の企画に関しては教室掲示やガイダンスを行った。申込に際しては共通の「申込用紙」を作成し、希望者多数の場合は、志望理由を踏まえて選考を実施した。

### ②新規の企画/企画の拡充・見直し

多様な学びの機会を提供する目的で、次のイベントやコンテストに新たに参加・実施した。

《新規》インプット活動
SSH 生徒研究発表会見学研修（バス）、パナソニックミュージアム見学研修 日経ウーマノミクスフォーラム見学
《新規》アウトプット活動
日本生物学オリンピック、情報オリンピック、パソコン甲子園 地理オリンピック、地球環境論文賞、Sci-Tech Research Forum 実験力大会、高校生チャレンジ、京都大学サイエンスフェスティバル 英語ポスター発表会

また、昨年度までに実施した企画のうち、希望者が多かったものや対象者を再考したが有効であると判断したものを次のように変更した。

「関東サイエンス研修」/15名 ⇒ 19名（例年希望者多数のため）

「臨海部エネルギー研修」/160名 [文理学科全員] ⇒ 23名 [希望者]

（所属に関わらず意欲ある生徒を対象に実施した方がよいと判断）

2012年度から参加している「化学グランプリ」については年々参加者が増加し、今年度は昨年度の2倍以上の41名が参加した。

### ③取組の見える化

実施後は今年度より開設した SSH ブログにて随時掲載し、保護者や中学生、その他の本校生、教職員に対して情報発信・共有を行った。

## 3. 高大連携

### ①大学教員との連携

大阪大学や大阪工業大学、関西学院大学をはじめとする大学教員の方々に、生徒の課題研究活動の指導・助言をいただいた。現在、大阪成蹊短期大学で教鞭をとられ、昨年まで本校 SET (Super English Teacher) として勤務されていた先生には、本校生の実態を踏まえて要旨の英訳表現について丁寧にご指導いただいた。また、教員向けの課題研究勉強会にも大学教員を講師としてお招きし、全校体制での課題研究指導に向けてご教授いただいた。

### ②グローバルサイエンスキャンパス (GSC)

京都大学 ELCAS、大阪大学 SEEDS プログラム、神戸大学 ROOT プログラムに関するガイダンスを実施し、1・2年生計 12 名が応募した。ELCAS に 1 名、SEEDS プログラムに 4 名合格した。合格者のうち、探究ラボに所属している生徒は全体会にて、GSC で学んできたことをパワーポイントにまとめ、紹介し参加者で共有した。

### ③卒業生との連携

京都大学や大阪大学等に在籍する卒業生計 9 名に学生 TA として後輩の課題研究活動をサポートいただいた。1・2年生の課題研究の授業への入り込み、放課後の指導、発表会等の行事の準備や運営補助、学生 TA 通信の発行、化学グランプリ講座、課題研究講演会、大学での学びの紹介等を行ってもらった。学生 TA 自身も本校での課題研究活動を経験しており、今年度初の企画であったが、臨機応変に対応いただいた。

## 4. 国際性

### ①サイエンスイングリッシュ

東京大学大学院修士号取得の留学生を講師に招き、本校理科教員と連携しながら All English で物理 (光の性質)・化学 (電池の性能) の実験及び発表を 2 日間に渡って行った。1・2年生の希望者 9 名を対象に実施し、実施後のアンケートには全員が再度このプログラムを受講したいと回答した。「災害時にグローバルに役立つ新製品の開発に挑戦したい」というような国際性や創造性の高まりを感じられる感想も見られた。

### ②国際交流活動

昨年度に続いてオーストラリア研修、ベトナム医療ボランティアツアー、台湾修学旅行、国際交流キャンプ等を実施した。また、台湾の松山高級中学校から生徒が来校した際には、英語を用いた交流会や体験授業を行った。研修や交流を通じて、英語コミュニケーション能力向上の動機づけになった。

### ③英語でのポスター発表

探究ラボに所属する生徒が 4 月に大阪府立三国丘高等学校にて 1 班、2 月に東京都立戸山高等学校にて 2 班が英語ポスター発表を行った。第 1 期では Abstract のみ英語で記載したポスターの作成は達成できた。今回全て英語でのポスターの作成及び発表を実施できた。

## 5. 探究ラボ

### ①顧問制の導入／全体会の実施

9 月より 1 つの研究班に理科教員 1 名とその他の教科の教員 1 名の計 2 名の指導顧問を割り当て、指導・助言を行った。放課後に各研究班が実験等を行い、毎週水曜日に全研究班が集っての全体会を行った。全体会では毎回 2 班程度が進捗状況を PowerPoint で発表し、議論する形式を定着させることができた。

### ②発表会での成果

探究ラボに所属する生徒には積極的に SSH 企画のインプット・アウトプット活動に積極的に参

加させた。下記の発表会で賞を獲得した。また、英語でのポスター発表にも挑戦した。

受賞した発表会	
「高校生チャレンジ／ポスター発表」 (電気化学会 関西支部主催)	【奨励賞】
「実験力大会／口頭発表」 (大阪ハイテクノロジー専門学校主催)	【優秀賞】
「大阪サイエンスデイ／口頭発表」 (大阪教育委員会主催)	【優秀賞】
「課題研究成果発表会／口頭発表」 (本校企画)	【理系最優秀賞】

### ③オープンラボ活動

学校説明会やオープンスクールにおいて、中学生やその保護者を対象に探究ラボの広報活動を行った。探究ラボ紹介 DVD の上映や全体説明会でのプレゼンテーション、探究ラボブース (質問会) の開催、探究クイズ・実験講座を生徒主体で実施した。校内外における探究ラボの認知度が上昇した。科学技術系人材をめざして入学する生徒の増加が期待できる。

## ② 研究開発の課題

### 1. 学校設定科目 (課題研究)

指導用共通教材は、課題研究の指導をするにあたってのハードルを下げるとともに、担当者間の指導のバラつき軽減に効果を発揮した。一方、あまりにも枠組みを固定化し過ぎると、指導の自由度が下がり、経験のある先生にとっては、やりにくくなるとの意見もあった。情報交換会において、ある高校では「成果物のメ切のみを決めている」との体制をとっているところがあり、本校もどの程度の枠組みを持たして指導に向かうべきか、今年度の結果を踏まえ、今後も検討を重ねていく。

また、開発した指導用教材を HP に掲載する等、成果の見える化や普及に努める。

### 2. インput活動・アウトput活動

企画の見直しと再編成を行い、生徒により実のある研修や発表会の機会を提供していく。研修報告書を専用のファイルに綴じ、ポートフォリオとしてまとめ、HR 活動や保護者懇談会ともリンクさせ、進路指導に活用していく。また、先進校視察での他校の実践例を参考に、本校での課題研究発表会において、地元の小中学生に発表の機会を提供し、科学技術系人材の早期育成に取り組むことを検討する。

### 3. 高大連携

課題研究活動における学生 TA 企画の更なる充実に加え、大学教員との連携や共同研究を行い、発表会やコンテストでの入賞数増加をめざす。課題研究活動を活かした A0・推薦入試の認知度は 1 年 7 月段階で約 5 割にとどまっており、進路指導部と連携しながら生徒の資質・能力に応じて多様な入試機会の情報提供と支援をしていく。

### 4. 国際性

本校でこれまで 1 年生対象に「如月杯 (英語暗唱大会)」を実施してきた。今年度は形式を変え、各自作成した 4 枚のスライドを用いながら、自由なテーマで英語プレゼンテーションを行った。新規の企画を立ち上げるだけでなく、例えば台湾修学旅行や海外からの高校生の訪問時に英語での課題研究相互発表会を行う等、既存のイベントの内容の再検討を行う。また、英語での口頭発表や海外での発表会参加に挑戦していく。

### 5. 探究ラボ

活動が放課後となるため、部活動との両立が課題となった。次年度は課題研究の授業時間に活動ができるよう探究ラボのテーマと授業のテーマを同一のものにする、「SS 探究」の他のメンバーと一緒に研究して研究活動を推し進める等して調整する。また、来年新入生が入ってくると、3 学年が揃うこととなる。部活動のように、先輩が後輩の研究活動を指導する関係や役職を当てて生徒主導で全体会やオープンラボ活動を運営し続けられるような体制作りを行っていく。そして探究ラボ 1 期生の大学受験に際し、希望する特色入試の合格・進学を支援する。